

KIIA 北名古屋市 国際交流協会 会報

発行者 北名古屋市国際交流協会
 Kitanagoya City International Association (KIIA)
 〒481-8531 北名古屋市役所 (西庁舎4階)
 TEL 0568-22-1111 (内線) 2400

vol. **24**
 2016. 4.

北名古屋の国際交流・・・ばづくり、ひとづくり、ちいきづくり。

市民アンケートの結果について

「新たな交流を求めて」

— 次の10年に向けて —

時代はグローバルのなかにあつて、北名古屋の国際機能をさらに拡充していくため、「新たな交流を求める」声が市民各層のなかに沸々としてきております。

この市民の動きを背景にして、北名古屋において、市政10周年の節目の年を迎え、この10年の国際交流を振り返り、次の10年に向けて、「新たな交流を求める」機運が深まりつつあります。

そこで、「市民が主役」の国際交流をめざす北名古屋市国際交流協会は、「新たな交流を求めて」次の10年に向けて「市民アンケート」を、昨年10月から12月の3か月にわたり、「ふれあいフェスタ2015」などで実施しました。296名の市民の皆様からご回答をいただきました。

「新しい交流先として英語圏の自治体と交流がしたい。」

「次代を担う子ども達に英語でのコミュニケーションができる機会を設けてほしい。」

「一過性ではなく継続的な交流をめざしてほしい。未来志向の交流を深めたい。」

「近隣太平洋諸国と交流がしたい。」

「韓国務安郡との交流を発展させたい。」など市民の大きな期待が寄せられました。

これらのご意見は「市民の声」として取りまとめ、1月に市長にお届けしたところです。

ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。



市民アンケート集計結果

◆アンケート総数

296名

◆性別

男 98名

女 198名

計 296名

◆年齢別

10代～20代 18名

30代～50代 106名

50代～60代 100名

70代以上 72名

計 296名

設 問	賛成	反対	いずれでもない	計
1. 新たな交流先は英語圏の自治体とする	198	6	92	296
2. 近隣アジア太平洋諸国と交流する	231	11	54	296
3. 次代を担う子ども達に英語でのコミュニケーションができる交流をめざす	276	6	14	296
4. 未来志向で一過性でない継続的な交流をめざす	269	3	24	296
5. 友好都市韓国務安郡との交流を発展させる	221	12	63	296

国際理解プログラム 世界を識るシリーズ

演題 「外交とユーモア」

国際理解を深めるため、平成27年11月28日、北名古屋市文化勤労会館小ホールで、外交官生活41年の大塚清郎氏（エッセイスト・元駐スウェーデン大使）をお迎えして、講演会を開催しました。以下はその概要です。

「今日の講師は、変なスカートはいて出てきたな」と思っておられる方が多いかと思いますが、私がはいているのはスカートではありません。「キルト」と言っています。スコットランドの男性の民族衣装の正装です。昔は、キルトの下は「すっぽんぼん」でしたが、今はちゃんどパンツをはいておられます。講演の最後でバグパイプを吹きますので「キルト」を着用しております。今日は、「外交とユーモア」というテーマでお話しさせていただきます。

宰相吉田茂の「外交とユーモア」

「外交とユーモア」を初めて教えて頂いたのは、吉田茂総理でした。50年前の昭和41年に外務省に入省した同期生24人が、大磯の吉田茂総理邸に昼食に招かれる機会がありました。吉田さんは座談の名手で、インドネシアのスカルノ大統領の来日の際のエピソード等を披露して頂きました。どうやら太平洋戦争がらみの対日賠償請求の話を持ち出すらしいという事前の情報だったので、私はこう言っただ。「スカルノさん、よく日本にいらっしやいました。心から歓迎致します。ところで、日本は、インドネシアのあたりから毎年やって来る台風のおかげで、いつも大きな被害をこうむっております。今、台風の被害総額を計算させております。近いうちに、その請求書をお返ししますから、ひとつ宜しくお願ひします」。そしたらスカルノは、賠償の話は全然口にはせずに行つたよと吉田さんと言いました。成程、外交術としてのユーモアはこんなところに生かされるのか。私達は吉田さんのユーモアにいたく感動したものです。

私の最初の異文化体験

今から55年前の1960年、私は、AFS（アメリカカン・ワールド・サービス）の交換留学生として1000人の仲間と一緒に水川丸に乗ってアメリカに渡り、一年間の留学体験をしました。名古屋の旭丘高校の3年生、青春のど真ん中の時でした。アメリカ中西部ミネソタ州のファームントンという小さな田舎町に行きまして、ホストファミリーにお世話になり、1年間、町の高校に通いました。スピーチのクラスが一番すごかったです。自分の意見を人前で英語で明確に述べることを、スピーチのクラスで徹底的に訓練されたのです。自己紹介の「三分スピーチ」では、出だしの話の大切さ、話の構成の工夫、キーワードの選び方、視線やジュスチャー、声の使い方等を徹底的に毎日教えられました。ミネソタ州のスピー

チ・コンテストに出場することになり、私は、「アンネの日記」をテーマに選び、戦争と平和の問題を話そうと色々と思を練り、出来上がった案を先生に見せて相談すると、先生は、何か一番ふさわしい引用句を入れるべきだと言います。そして、先生の助言で国連のユネスコ憲章を読み、「Since wars begin in the minds of men, it is in the minds of men that the defenses of peace must be constructed」（戦争は人の心の中で始まる。だから、人の心の中に平和の砦を築かねばならない）という一文を引用することにしました。スピーチの最後をこの一文で締めくくると、我ながら見事な出来ばえになり、入賞したときは本当に嬉しかったです。日本の中学や高校教育でも人前で意見を言う訓練（パブリック・スピーキング）をもっと取り入れるべきだと私は思います。

アメリカでの体験で一番鮮烈な印象として記憶に残ることは、ケネディ大統領とホワイトハウスのAFS留学生全員2千人がワシントンに集合しましてね、ホワイトハウスに招かれケネディ大統領との会見が組まれました。ご存知のように、1961年の1月、ケネディは43歳の若さで大統領に就任し、就任演説で、こう演説しました。「Ask not what your country can do for you. Instead, ask what you can do for your country.」AFS留学生達で埋め尽くされたホワイトハウスのローズガーデンという中庭で、ケネディ大統領は私達に語りかけました。「若い君達には未来があります。皆さん、平和のための架け橋になって下さい」。私が外交官への道を選んだのは、このケネディの言葉に背中を押されたのかもしれない。

スリランカの民族紛争の現場で取り組んだ「戦争と平和の問題」

私は外交官という仕事柄あちこちの外国を回り、全部で7つの国で仕事を致しました。スリランカの民族紛争の現場で取り組んだ「戦争と平和の問題」が最も印象に残る仕事でした。内戦が続くスリランカに大使として2000年8月に赴任した頃は、内戦が続き、反政府武装グループ（LTTE）の自爆テロがコロンボの街で頻発しておりました。スリランカは、20数年も民族紛争が続いた国で、その原因は、シンハラ人（仏教徒）の多数派とタミル人（ヒンズー教徒）の少数派の対立です。

着任後しばらくして2002年2月、幸いなことに停戦合意が成立しました。そこで、私は本省スリランカ政府等に予め根回しをして了解を得て、和平交渉の早期開始を説得するため、LTTEの本拠地・キリノッチに出かけることにしたのです。私の会談相手は、LTTEの第二番目のリーダーで、タミルチェルバンという35歳の筋金入りの闘士です。私はLTTEの本拠地キリノッチには合計8回行きました。LTTEのひどい宿泊所に、ひと晩泊めてもらったこともあります。この第一回会談から約40日後、実際にスリランカ政府とLTTEとの第一回目の和平交渉がタイで開始されました。2003年3月には、日本政府主催で、箱根で和平交渉が開催され、6月には「スリランカ復興開発に関する東京会議」が開催され、スリランカのウイクラマシンハ首相や小泉首相も参加しました。これには、51カ国と22の国際機関の代表が参加して、総額45億ドル

のスリランカ復興開発支援（日本政府は10億ドルの支援を約束しました。このあたりまでは日本が描いていた和平定着のシナリオは順調に進んでいたのです。しかし、その後、情勢は一変し、残念ながらスリランカは内戦に逆戻りするのです。2005年の総選挙で登場した新政権がLTTE掃討作戦を強行し、2009年5月、LTTEを軍事的に壊滅させたのです。タミルチェルバンは、政府軍の空爆で死亡しました。LTTE最高指導者のプラバカランも殺害されました。

現在、スリランカには表面的には平和が到来したかのように見えます。自爆テロもありません。しかし、少数派のタミル人たちの不満は依然として根深く、多数派のシンハラ人との間の真の民族和解は、残念ながらまだほど遠い状況です。スリランカの和平プロセスが進んでいく頃、トンネルの向こうに見える光を多くの人々は「平和の光」だと思つていたのですが、振り返ってみれば、それは、「幻の平和の光」だったのです。タンゴは結局のところ、二人で踊るものなのです。パートナーとの呼吸が合わなければ、ダンスは転んでしまうのです。紛争当事者自身が「その気」にならなければ、真の解決は困難です。これが、民族紛争の現場で得た私の実感です。皆さん、自爆テロはどうして続くのでしょうか？ 何故9・11のような自爆テロがおこるのでしょうか？ 何故イスラム国のような過激な暴力組織がはびこるのでしょうか？ 先程も引用しましたが、ユネスコ憲章に「戦争は人の心の中で生まれる。だから、平和の砦は人の心の中に築かれなければならない」とあります。美しい言葉です。しかし、戦争の原因は複雑で多様で、平和の砦を人の心の中に築くのは至難のことです。私は最近、この地球に戦争のない世界は、やって来ないと思うようになりまして。皆さんはどうお考えでしょうか？ 人間社会に多様な民族、異なる宗教が存在し、国家に闘争本能のある限り、残念ながら戦争はやむことは無いと思ひます。甘い幻想は禁物だと思ひます。それにもかかわらず、対話は続けて行かなければなりません。国際交流は継続こそ力であると思ひます。あくまでも粘り強く、静かに、人と人を繋ぐ努力を続けて行くことが大事であると思ひます。

（二）講演会は、大和塾と共催で開催しました。



2月はアジアフェスティバル

近くて遠いアジア太平洋諸国との交流の場として、市民手づくりの国際交流イベントを今年も2月13日(土)北名古屋市文化勤労会館で開催しました。

5年前の「韓国フェスティバル」を皮切りにスタートし、回を重ね4回目のフェスティバルとなりました。

今年も、インドネシア「バリ」にスポットを当てました。出演は、名古屋をベースに活躍されているバリ民族楽器ガムラン演奏グループ、スアラ・スクマの皆さんで、小ホール全体がバリの空気に包まれました。そして、バリ舞踊グループは、スルヤ・ムトウの皆さんでした。演目は、「チヨナヨ」というグルガン(頭につける冠)が



とても特徴的で愛らしくかわい
い衣装の踊り子
たち4人による、
豊穡の女神をか
たどった人形が
風に吹かれて揺
れる様を表現し
たもの。そして、
「テレック」とい
うバリの仮面舞踊
劇で、舞う美女テ
レックの仮面は
微笑を浮べた端
正な顔立ちです
が表情の豊かさ
に驚きました。

アジア
フードコー
ナーでは、イ
ンドネシア専
門料理店「ブ
ラン」バリ
Bulan Bali」
から「サテ
(やきとり)」、
「ナシゴレン
(やきめし)」、
「ミーゴレン
(やきそば)」
などを特別販売しました。



「インドネシアコーヒー」は、超細挽きのパウダー状のもので、コーヒーパウダーに湯を注いで粉ごと飲むコーヒーです。コーヒーメーカーやドリップ式とは一味違う豊かな味で、大変、好評でした。

視聴覚室ではインドネシア映画、「ルック・オブ・サイレンス」(2012年ベネチア国際映画祭賞作品)を鑑賞しました。

今年のアジアフェスティバルはインドネシア「バリ」文化溢れるイベントとなりました。

また、ガム政府観光局の出演が実現しました。ガム観光局日本代表を講師にして「アメリカ、ガムでしかできない事 講座」を小ホールで開催しました。新たな交流をめざして、英語圏自治体ガムとの交流がいよいよ始まります。

(フェスティバルでの収益金は、国際貢献事業として、公益財団法人「アジア保健研修所」(<http://ahi-japan.jp>)の活動支援のため、寄付させていただきます。)

私の国際交流

心の交流

日本語教室ボランティア 大野 朋子

私が外国人のお子さんに日本語を教えるボランティアを始めて一年半が過ぎました。現在、小学六年生のトルコ出身の男の子を担当しています。授業初日、はにかんだ笑顔を浮かべながらも、どんな授業が始まるのか分からず、不安そうな様子だったのを覚えています。当初は、もちろん会話もままならず、手探り状態で授業を進めました。時には元気がないこともあり、そんな時には大好きなトルコの話をしてもらいました。絵を描いたり、インターネットの画像を使いながら、覚えた日本語で一生懸命にトルコの話をする彼の眼は、キラキラ輝いていました。そんな彼も、今では流行りの言葉を使い、伝えたいことを自由に話せるようになってきています。

実は、私の娘達も同じような体験をしたことがあります。今から十年前、主人の仕事の関係で、私達家族はアメリカのオハイオ州に移り住み、当時高校二年生と中学一年生になった娘達は、現地の学校に通い始めました。高校一年まで英語を勉強していた長女と違い、次女は英語を勉強する前に渡米してしまっていたので、授業も全く理解できず、いたたまれずに教室から逃げ出してしまったこともあったようです。言葉以外にも、人種や文化の違いに戸惑い、予期していたものと違う厳しい現実には動揺していました。そんな中、現地の先生方は娘達の心を理解し、寄り添ってくれたのです。言葉の壁がどれほど大きく、それを乗り越えようと、いかに娘達が頑張っているかを、他の生徒たちに話してくれた先生もいました。ご自宅で英語を教えてくださいました先生もいました。どれほどありがたかったことでしょうか。アメリカでの二年半の生活を通して、「言葉の壁は大きい、されど心の交流は国籍を越える。」という大切なことを私達は身をもって学びました。

日本語ボランティアを始めた私に、次女が、母国を離れて来た子供の心を誰よりも理解してあげてほしい、と涙ぐみながら言ったことがあります。日本語教師である前に、子供の気持ちをそのまま受容できるような、良き理解者でありたいと強く願っています。



通常総会開催

協会では通常総会を開催します。

- と き 平成28年4月9日(土)午前10時から
- ところ 北名古屋市文化勤労会館小ホール
- 対象 協会会員
- 議題 平成27年度事業報告・決算報告
- 平成28年度事業計画(案)、事業予算(案)
- その他

協会の総会は協会会員の方しか参加できません。
なお会員の皆様には、事前に開催通知をご送付させていただきます。

総会開催記念ハワイアン音楽鑑賞会

通常総会終了後、国際理解を深めるため、「レイ・小原とカホロサウンドズ」による《魅惑のハワイアン音楽》演奏会を開催します。

また、「ハーラウ・カリコプア・オ・カラニアーケア」の皆さんのフラダンスもあります。
なお、会員以外の皆様の入場には、入場整理券が必要です。(先着50名様)

□と き 平成28年4月9日(土)午前11時から
開始時間を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

□ところ 北名古屋市文化勤労会館小ホール

□入場整理券
平成28年4月1日より、市役所西庁舎4階協会事務局で配布します。



外国語講座を開講します

平成28年5月から平成29年2月まで、全20回です。3か国語5コースの外国語講座です。気楽にはじめ、国際理解を深めましょう。

- 対象 市内在住・在勤の方
- 受講料 一般 年14000円
会員 年11000円
- 定員 各講座とも30名(先着順)
- 申込み

平成28年4月1日から受講料を添えて協会事務局へ申し込みください。

なお開講日は、原則をお示ししております。詳細は、ホームページ、事務局でご確認ください。また、お申し込みが15名以下の場合、開講を見合わせる場合がありますので、あらかじめ、ご了承ください。

講座	日時	場所
韓国語基礎	毎月第2、第4月曜日 18:45~20:45	北名古屋市 健康1階 市一室 古ド研 屋一修
韓国語応用	毎月第1、第3木曜日 18:45~20:45	北名古屋市 健康1階 市一室 古ド研 屋一修
中国語	毎月第2、第4木曜日 18:45~20:45	北名古屋市 健康1階 市一室 古ド研 屋一修
英会話基礎	毎月第2、第4金曜日 18:45~20:45	北名古屋市 健康1階 市一室 古ド研 屋一修
英会話応用	毎月第2、第4水曜日 18:45~20:45	北名古屋市 健康1階 市一室 古ド研 屋一修

グアム海外体験ツアー

尾張中央タイムズ30周年を記念して、将来を担う中高生らに異文化を体験させるツアーです。保護者から離れて自分の力で初めての体験をしてみませんか？

ツアー中はオールイングリッシュで生活します。北名古屋市の「新たな交流」がスタートします。

- 旅行期間 平成28年7月23日~26日(4日間)
- 旅行先 アメリカ・グアム
- 参加対象 中学2年から高校2年
- 景観人員 8名(募集人員20名)
- 旅行代金 20万円程度

食事、海外旅行保険、アクティビティ付き

主催 尾張中央タイムズ
共催 北名古屋市国際交流協会

《お問い合わせ》
尾張中央タイムズ ☎0568(23)0837

各種申し込み、お問い合わせ等は、
左記までお願いいたします。

〒481-8531 北名古屋市西之保清水田15番地
北名古屋市役所西庁舎4階

北名古屋市国際交流協会

電話 0568(22)1111 内線2400
ファックス 0568(25)1800
Eメール info@kitanagoya-kia.jp
ホームページ http://www.kitanagoya-kia.jp
フェイスブック https://www.facebook.com/kitanagoyakia